

認定NPO法人 日本レスキュー協会
セラピードッグテスト

TH-1

TH-2

TH-3

オビディエンステスト (TH-1・TH-2・TH-3)

受験をされるの前に

- ・試験中は一切のおもちゃやおやつ類は使用できず、ポケットにも入れない事
- ・受験者はポーチ類・手袋や装飾品等も使用しないのが原則だが、天候や季節に応じ審査員の判断で使用許可する場合もある
- ・犬に洋服等を着させる事も原則禁止であるが、審査員の判断により使用許可する場合もある
- ・犬に使用する用具は、首輪（皮製・布製のバックルカラー、チョークは皮・布・チェーン素材で、首が締らないようストッパーがついているもの）とリード
- ※ 使用禁止用具は以下の通り
ピンチカラー（ジャーマンチョーク）・ヘッドホルダーカラー・イージーウォーク ・ジエントルリーダー・ハーネス・胴輪・スリッカラー・チョークチェーン（締め付けるもの）・ショックカラー・アボアストップ
- ・試験項目に物品持来がある受験者は物品を予め用意する事
 - ※物品は市販されているダンベル等が望ましいが大きさや重さに決まりは無い
 - 但し、犬が咥えている物品の両端を両手で挟み取れる物が基本で、口の中に隠れてしまう物、音が鳴る物、ボールなどは不可
- ・試験前には必ず「排尿・排便」を済ませておく事
 - ※ 排尿・排便は指定された所でさせ、便はマナー袋を持参し持ち帰る事
- ・試験内容は必ず覚えておく事

試験と審査について

- ・試験の進行は審査員の合図で始まる
- ・試験項目がノーリードの場合は犬のリードは試験の邪魔にならない様、肩に掛ける事
- ・犬を誘導する行為(ハンドシグナル・ボディーアクション)を使用しない事が理想である
- ・試験は全て「基本姿勢」に始まり「基本姿勢」で終了する
- ・コマンドは一作業につき1度が理想であり、一作業につき3度以上使用してはいけない
但し、遠隔操作の場合はハンドシグナルとコマンドを同時に使用でき、1回とみなす
- ・犬の作業外でコマンドや犬の名前を言わない事が理想であるが必要であれば使用してもよい
- ・コマンドの言葉はどの様な言語でもよいが、長く言葉になるようなものは使用できない
- ・コマンドは出発時・停止後の再出発・歩度の変更時だけ許され、停止時・コーナー・タ

ーンなどでは使用できない

- ・試験中、むやみに「チョーク」を引く等、それに準ずる事はその都度減点対象となる
- ・試験中、むやみに犬の体に触れる事はその都度減点対象となる
- ・試験中、犬があらゆる人(審査員・群衆)の体に触れる事はその都度減点対象となる
- ・試験中、もし受験者がコースを忘れた場合は審査員に聞く事
 - ※コースや作業を間違っただま進行するとその間の評価が出来ない事がある
- ・各項目終了時は犬を褒めてよいが、激しく褒めてポジションを大幅に動かしてはいけない
- ・試験中、審査員の体調不良等によって審査員が交代する場合もありえるが、得点・評価に何ら変わりはない

試験の中止

- ・一作業につき、3度のコマンドかハンドシグナル(ボディーアクション)で作業が実行されなかった場合、審査員より作業が中止されこの作業(項目)の得点を0点にする
但し、次の項目より開始できる

試験の失格について

- ・犬に明らかな攻撃性があると審査員が判断した時
- ・受験者に犬のコントロールが不能となったと審査員が判断した場合
- ・受験者及び犬に重大な問題(怪我や態度等)が有ると審査員が判断した場合
- ・受験者が犬や審査員等に対し不法行為やこれに準ずる行為・言動を行った場合
- ・余りにも試験時間が長引き、他の受験者等に対し影響が出ると審査員が判断した場合

審査・ジャッジシートについて

- ・審査は一項目毎に評価を下し、その評価に応じた点数が与えられる
- ・受験全項目終了後の評価時に、審査員により得点と合否が公表される
- ・受験者は審査内容に対し、異議申し立てをする事は出来ない
- ・受験者本人はジャッジシートを閲覧できる
- ・ジャッジシートは審査員が署名をする事によって効力を持つ

試験結果の判定

- ・本認定試験のオビディエンステストによる合格点は、以下の通りになる
アシスタントドッグ 40点以上で合格

セラピードッグ 70点以上で合格

トップセラピードッグ 70点以上で合格

- 不合格の場合は当日その理由とアドバイスを致します
- 合格した犬は、仮認定となり現場テストへ進める

TH-1 アシスタントドッグ オビディエンステスト 50点

規定種目

① リード付き脚側行進	5点
② リード無し脚側行進	5点
③ 停座及び招呼	10点
④ 脚側行進及び伏せ	10点
⑤ 脚側行進及び立止	10点
⑥ 群衆内据座（30秒）	5点
⑦ 休止	5点

TH-2 セラピードッグ オビディエンステスト 100点

規定種目

① リード無し脚側行進	10点
② 脚側行進中停座及び招呼	20点
③ 脚側行進中伏せ	15点
④ 脚側行進中立止	15点
⑤ 遠隔立止から停座及び招呼	20点
⑥ 物品持来	10点
⑦ 休止	10点

TH-3 トップセラピードッグ オビディエンステスト 100点

規定種目

① リード無し脚側行進	10点
② 脚側行進中停座及び招呼	10点
③ 速歩行進中伏せ	10点
④ 速歩行進中立止	10点
⑤ 遠隔立止から停座、伏せ、立止及び招呼	20点
⑥ 物品持来	20点
⑦ 前進及び伏せ	10点
⑧ 休止	10点

試験項目詳細

申告(しんこく)

「受験番号・犬名・ハンドラー名」を審査員に伝え、審査員と握手する事

基本姿勢(きほんしせい)

ハンドラーは進行方向に立ち、犬は左横で真っ直ぐに座る

ハンドラーの左脚と犬の胸がハンドラーの真横から見ると揃っている事が望ましい

ターンの後やハンドラーが行進を停めた時等のいわゆる「指示無しの座れ」

脚側行進(きゃくそくこうしん)

常にハンドラーの左脚側に犬の顔があり、平行に歩いている作業

通常脚側行進とは常歩(普通に歩くスピード)の事

緩歩(かんぼ)とは「ゆっくり歩くスピード」の事

速歩(そくほ)とは「駆け足のスピード」の事

右ターン

ハンドラーのスピードに合わせて右回りに180度回転させる事

停座(ていざ)

ハンドラーのコマンド(スワレ等)により速やかにお尻を地面につけさせる作業

立止(りっし)

ハンドラーのコマンド(タテ等)により4本足をしっかりと立たす作業

招呼(しょうこ)

ハンドラーのコマンド(コイ等)によりハンドラーと離れていた犬を、速やかに走らせハ

ンドラーの対面で座らせる作業

この時、犬と距離を空けてはいけませんが、犬はハンドラーに触れてもいけない

TH-1 アシスタントドッグ オビディエンステスト 50点

試験の流れ（コースレイアウト参照）

① リード付き脚側行進（緩歩・速歩） 5点

受験者はリードを付けたまま申告地点で基本姿勢をとり、審査員に申告をする。

「A」で、基本姿勢で待ち審査員の合図でコマンドをかけ、脚側行進で「B」に進む。「B」で群衆（群衆はその場で足踏みしている）を8の字で周り「B」に戻り基本姿勢をとる。「B」～「E」まで常歩で「E」～「F」まで速歩で「F」～「G」まで緩歩で「G」～「H」まで常歩でそれぞれコマンドをかけ立ち止まらず進む。「H」で右ターンし、コマンドをかけ「A」まで速歩で戻る。「A」でターンして基本姿勢をとる。

② リード無し脚側行進 5点

「A」でリードを外し基本姿勢で審査員の合図を待ち、①で行った脚側行進をリード無しで行う。

③ 停座及び招呼 10点

「A」でハンドラーと犬は基本姿勢で待ち、審査員の合図でコマンドをかけ待たせて、ハンドラーは振り返ることなく常歩で「C」まで進み犬と対面する。審査員の合図でコマンドをかけ犬を呼びこみハンドラーの正面に座らせ3秒間あけた後、基本姿勢をとる。審査員の合図で「A」まで戻りターンして基本姿勢をとる。

④ 脚側行進及び伏せ 10点

「A」でハンドラーと犬は基本姿勢で待ち、審査員の合図で、コマンドをかけスタートし「B」で立ち止まり、犬にコマンドをかけ伏せさせる。ハンドラーは振り返ることなく常歩で「C」まで進み犬と対面する。審査員の合図で犬の元へ戻り、伏せている犬の右側に立ち、審査員の合図でコマンドをかけ犬を座らせる。コマンドをかけ右ターンし「A」まで戻りターンして基本姿勢をとる。

⑤ 脚側行進及び立止 10点

「A」で、基本姿勢のまま待ち、審査員の合図でコマンドをかけスタートし「B」で立ち止まりコマンドをかけ立たせる。ハンドラーは振り返ることなく「C」まで進み立ち止まり犬と対面する。審査員の合図で犬の元へ戻り、立っている犬の右側に立ち、審査員の合図でコマンドをかけ犬を座らせる。

⑥ 群衆内据座（30秒） 5点

この課目は「A」に戻ることなく、立止を終えた「B」での基本姿勢から始まる。

「B」でハンドラーと犬は基本姿勢で待ち、審査員の合図でコマンドをかけ待たせ、ハン

ドラーは振り返ることなく「C」まで進み犬と対面する。30秒後審査員の合図により犬の元に戻り、コマンドをかけ右ターンし「A」まで戻りターンして基本姿勢をとる。

⑦ 休止 (3分) 5点

審査員の合図でハンドラーと犬はコース中央「J」に移動し、ハンドラーが離れる方向に向かって基本姿勢をとる。審査員の合図でコマンドをかけ伏せさせ、コマンドをかけ待たせハンドラーは振り返ることなく、犬から見えない指定された場所へ行く。

審査員の合図で犬の元へ戻り、伏せている犬の右側に立ち、審査員の合図でコマンドをかけ基本姿勢をとる。

TH-2 セラピードッグ オビディエンステスト 100点

試験の流れ (コースレイアウト参照)

① リード無し脚側行進 (緩歩・速歩) 10点

受験者はリードを付けたまま申告地点で基本姿勢をとり、審査員に申告をする。

「A」でリードをはずし肩にかけ基本姿勢で待ち、審査員の合図でコマンドをかけ、脚側行進で「B」に進む。「B」で群衆(群衆はその場で足踏みしている)を8の字で周り「B」に戻り基本姿勢をとる。「B」～「E」まで常歩で「E」～「F」まで速歩で「F」～「G」まで緩歩で「G」～「H」まで常歩でそれぞれコマンドをかけ立ち止まらず進む。「H」で右ターンし、コマンドをかけ「A」まで速歩で戻る。「A」でターンして基本姿勢をとる。

② 脚側行進中停座及び招呼 20点

「A」で、基本姿勢で待ち審査員の合図でコマンドをかけスタートする。「B」で立ち止まらず犬にコマンドをかけ座らせて、ハンドラーは振り返ることなく常歩で「C」まで進み犬と対面する。審査員の合図でコマンドをかけ犬を呼びこみハンドラーの正面に座らせ3秒間あけた後、基本姿勢をとる。審査員の合図でコマンドをかけ「A」まで戻りターンして基本姿勢をとる。

③ 脚側行進中伏せ 15点

「A」で、基本姿勢で待ち審査員の合図でコマンドをかけスタートする。「B」で立ち止まらず犬にコマンドをかけ伏せさせて、ハンドラーは振り返ることなく常歩で「C」まで進み犬と対面する。審査員の合図で犬の元へ戻り、伏せている犬の右側に立ち、審査員の合図でコマンドをかけ犬を座らせる。コマンドをかけ右ターンし「A」まで戻りターンして基本姿勢をとる。

④ 脚側行進中立止 15点

「A」で基本姿勢のまま待ち、審査員の合図でコマンドをかけスタートし「B」で立ち止まらず犬にコマンドをかけ立たせて、ハンドラーは振り返ることなく「C」まで進み犬と対面する。

審査員の合図で犬の元へ戻り、立っている犬の右側に立ち審査員の合図でコマンドをかけ犬を座らせる。

⑤ 遠隔立止から停座及び招呼 20点

この課目は「A」に戻ることなく、立止を終えた「B」での基本姿勢から始まる。

「B」でハンドラーと犬は基本姿勢で待ち、審査員の合図でコマンドをかけ立たせて待たせる。ハンドラーは振り返ることなく「C」まで進み、犬と対面する。審査員の合図でハンドラーは遠隔で「B」地点に犬を座らせる。その後、審査員の合図でコマンドをかけ犬

を呼びこむ。ハンドラーの正面に座らせ3秒間あけた後、基本姿勢をとる。審査員の合図でコマンドをかけ「A」まで戻りターンして基本姿勢をとる。

⑥ 物品持来 10点

基本姿勢からハンドラーは、物品を5m前方に投げ、物品が完全に静止したら審査員の合図でコマンドをかけ、犬に物品を持ってくるように命じ、物品を咥えたままハンドラーの正面に座らせる。

審査員の合図でハンドラーのコマンドより物品を出させ、3秒間あけた後、基本姿勢をとる。

⑦ 休止 (3分) 10点

審査員の合図でハンドラーと犬はコース中央「J」に移動し、ハンドラーが離れる方向に向かって基本姿勢をとる。審査員の合図でコマンドをかけ伏せさせ、コマンドをかけ待たせハンドラーは振り返ることなく、犬から見えない指定された場所へ行く。

審査員の合図で犬の元へ戻り、伏せている犬の右側に立ち、審査員の合図でコマンドをかけ基本姿勢をとる。

TH-3 トップセラピードッグ オビディエンステスト 100点

試験の流れ（コースレイアウト参照）

① リード無し脚側行進（緩歩・速歩） 10点

受験者はリードを付けたまま申告地点で基本姿勢をとり、審査員に申告をする。

「A」でリードをはずし肩にかけ基本姿勢で待ち、審査員の合図でコマンドをかけ、脚側行進で「B」に進む。「B」で群衆（群衆はその場で足踏みしている）を8の字で周り、「B」に戻り基本姿勢をとる。「B」～「E」まで常歩で、「E」～「F」まで速歩で、「F」～「G」まで緩歩で、「G」～「H」まで常歩でそれぞれコマンドをかけ立ち止まらず進む。「H」で右ターンし、号令をかけ「A」まで速歩で戻る。「A」でターンして基本姿勢をとる。

② 脚側行進中停座及び招呼 10点

「A」で、基本姿勢で待ち審査員の合図でコマンドをかけスタートする。「B」で立ち止まらず犬にコマンドをかけ座らせて、ハンドラーは振り返ることなく常歩で「C」まで進み犬と対面する。審査員の合図でコマンドをかけ犬を呼びこむ。ハンドラーの正面に座らせ、3秒間あけた後、基本姿勢をとる。審査員の合図でコマンドをかけ「A」まで戻りターンして基本姿勢をとる。

③ 速歩行進中伏せ 10点

「A」で、基本姿勢で待ち審査員の合図でコマンドをかけ速歩でスタートする。「B」で立ち止まらず犬にコマンドをかけ伏せさせて、ハンドラーは振り返ることなく速歩で「C」まで進み犬と対面する。審査員の合図で犬の元へ戻り、伏せている犬の右側に立ち、審査員の合図でコマンドをかけ犬を座らせる。コマンドをかけ右ターンして、「A」まで戻りターンして基本姿勢をとる。

④ 速歩行進中立止 10点

「A」で基本姿勢のまま待ち、審査員の合図でコマンドをかけ速歩でスタートし、「B」で立ち止まらず犬にコマンドをかけ立たせて、ハンドラーは振り返ることなく速歩で「C」まで進み犬と対面する。審査員の合図で犬の元へ戻り、立っている犬の右側に立ち審査員の合図でコマンドをかけ犬を座らせる。

⑤ 遠隔立止から停座、伏せ、立止及び招呼 20点

この課目は「A」に戻ることなく、立止を終えた「B」での基本姿勢から始まる。

「B」でハンドラーと犬は基本姿勢で待ち、審査員の合図でコマンドをかけ立たせて待たせる。ハンドラーは振り返ることなく「C」まで進み犬と対面する。

審査員の合図で対面したままコマンドをかけ座れ、伏せ、立止を続けて命令する。

審査員の合図でコマンドをかけ犬を呼びこむ。ハンドラーの正面に座らせ、3秒間あけた後、基本姿勢をとる。「C」にリードを丸めて置き、審査員の合図でコマンドをかけ「A」まで戻りターンして基本姿勢をとる。

⑥ 物品持来 20点

基本姿勢からハンドラーは、物品を5m前方に投げ、物品が完全に静止したら審査員の合図でコマンドをかけ、犬に物品を持ってくるように命じ、物品を啜えたままハンドラーの正面に座らせる。

審査員の合図でハンドラーのコマンドより物品を出させ、3秒間あけた後、基本姿勢をとる。

⑦ 前進及び伏せ 10点

「A」で基本姿勢から、審査員の合図でコマンドをかけ、犬だけを前方のリードを丸めておいた「C」まで誘導する。(ハンドシグナル使用可)

犬が「C」に丸めて置いてあるリードまで前進したら審査員の合図なしでコマンドをかけ伏せさせる。

審査員の合図でコマンドをかけ呼びこみハンドラーの正面に座らせ審査員の合図なしで基本姿勢をとる。

⑧ 休止 (3分) 10点

審査員の合図でハンドラーと犬はコース中央「J」に移動し、ハンドラーが離れる方向に向かって基本姿勢をとる。審査員の合図でコマンドをかけ伏せさせ、コマンドをかけ待たせハンドラーは振り返ることなく、犬から見えない指定された場所へ行く。

審査員の合図で犬の元へ戻り、伏せている犬の右側に立ち、審査員の合図で基本姿勢をとる。

